

## 水道施設の耐震性能、耐震性の向上に関する取組について

水道は市民生活と都市活動に欠かせないライフラインです。将来にわたって「安全で良質な水」を送り続けるだけでなく、地震や渇水などの「災害にも強い水道づくり」を進めて行くことが必要です。生活に欠かせない水を皆様にお届け出来るように、当企業団では、順次水道施設の耐震化に取り組んでいます。

当企業団の水道施設状況、耐震化への取組についてお知らせします。（令和2年3月31日現在）

### 【浄水施設の耐震状況】

浄水施設とは、取水施設から取り込んだ原水を飲用に適するよう処理する施設です。

全浄水場施設能力	耐震対策の施されている浄水施設能力	浄水施設の耐震化率
120,000 m <sup>3</sup> /日	20,000 m <sup>3</sup> /日	16.7 %

### 【管路の耐震化状況】

管路とは、水源から浄水施設に導水する管や、飲み水を送るための送水管のことです。

管路延長	耐震管延長	管路の耐震化率
93.2 km	50.3 km	54.0 %

### 【調整池の耐震化状況】

調整池とは、浄水場から送った水を蓄えておくタンクのことです。

調整池有効容量	耐震対策の施されている調整池有効容量	調整池の耐震化率
43,690 m <sup>3</sup>	27,690 m <sup>3</sup>	63.4 %

### 【耐震化に関して実施した取組について】

- **福井地内2号送水本管布設替工事**（実施：平成21年度～平成22年度）  
φ900コンクリート管を使用していた倉敷市福井地内の2号送水本管（約1.2km）を耐震性能の高いダクタイル鋳鉄管に布設替えを行いました。
- **第3系浄水池築造工事**（実施：平成21年度～平成23年度）  
耐震適合性のなかった、旧第3系浄水池（4号池）を取り壊し、新たに耐震構造である容量3,700m<sup>3</sup>の第3系浄水池を築造しました。
- **第3系導水管布設工事**（実施：平成24年度～平成25年度）  
平成25年度、第3系浄水池から、送水ポンプ井までの石綿管を耐震性能の高いダクタイル鋳鉄管に更新しました。この導水管には一部石綿管が残っており今後の更新課題としています。
- **高度浄水処理施設築造工事**（実施：平成25年度～平成28年度）  
安定して臭気濃度が除去できる高度浄水処理施設を築造しました。  
躯体構造は、重要度ランクA・目標耐震性能レベル2（日本水道協会「水道施設耐震工法指針」）を有するRC造（地下1階、地上2階）としました。
- **第1系構内配管整備工事**（実施：平成30年度～令和元年度）  
緩速ろ過池流入管等の老朽化が進んでいる導水管を耐震性能の高いダクタイル鋳鉄管に更新しました。

企業団では、より安定した水道水の供給が出来るよう施設の耐震化に取り組んでいきます。